

平成 30 年度 食育推進に係る実践報告書

学校名

庄原市立高野小学校

1 学校における食育の現状（昨年度からの課題等）

給食については、食べるのに時間のかかる児童はいるが、残菜量は少なくよく食べている。また、ランチルームで食べるので、全校で食事のマナーに取り組んでいるが、食事のマナーに課題のある児童もみられる。

朝食の摂取状況は、朝食を食べてきている児童 98%、朝食をバランスよく食べてきている児童は 53%（平成 30 年 2 月実施時）であり、増加を目指す。

2 学校の食育に係る目標（成果指標・目標値）

[中期経営目標] 自分を鍛え、強く、たくましい子を育成する。（元気いっぱい）

[短期経営目標] 望ましい食習慣の定着を図る。

[評価基準] 食に関するアンケート「よい姿勢で食べている」「はしや食器を正しく持って食べている」の肯定的評価の割合（児童アンケート 80%以上 教職員アンケート 70%以上）

3 食育の目標に対する具体的な取組

【取組 1】（テーマ） 朝食をバランスよく食べる児童の増加

取組内容：①高野っ子生活リズム週間（年 3 回） ②食育担当者会による食育指導
③特別活動（学級活動）での指導 ④給食時間における指導

朝食における指導では、「朝食の大切さ」、「朝食の内容」、「朝食を毎日食べるために自分ができること」の 3 つに分けて、指導を行った。学級活動では簡単にできる朝食づくりのデモンストレーションを行った。朝食を食べるために自分ができることを考えさせたりすることで、行動変容を促した。

【取組 2】（テーマ） 食事のマナーの定着に向けて

取組内容：①月ごとに給食目標を決め、クラスでの達成度を月末に発表させる。
②はしの練習コーナーを設置する。
③食育朝会や学級活動で取り上げる。
④児童と教職員に食事のマナー等に関するアンケートを実施する。（年 2 回）

目的：食事のマナーを振り返らせ、食事のマナーの定着を図る。

7 月に実施した食に関するアンケートでは、教職員の評価と児童の自己評価に差があった。児童自身はできていると思っても、実際は食事の姿勢・食器やはしの持ち方が定着していない実態があった。そのため、アンケート結果や、食事の姿勢・食器やはしの持ち方についての指導のポイントについてまとめたものを教職員に配付し、学校全体で取り組めるようにした。また、児童が正しいはしの持ち方を見直せるように、朝会ではしについて取り上げ、はしの練習コーナー（スポンジや豆をつまむ）を設置した。児童は休憩時間などに取り組み、楽しくはしの持ち方の練習をした。



【取組3】(テーマ) 全国学校給食週間

取組内容：中学生の作成した献立を、3日間実施する。

実施期間：1月23日～1月30日

目的：生徒が主体となって給食献立を考えることで、食に興味関心をもち、食生活を振り返る機会とする。(中学校家庭科)

中学校の家庭科の授業で、教科担当者と栄養教諭がTTで授業を行った。生徒は、給食の献立がどのような条件で考えられているのかを知り、「寒さに負けない体をつくる」をテーマに献立を作成した。全国学校給食週間に合わせて、中学生が考えた給食を小・中学校に提供した。給食実施日には、中学生が小学校を訪問し、工夫したことや食品の栄養についての発表をし、小学生と一緒に給食を食べて交流した。



【取組4】(テーマ) 食育担当者会(小学校・中学校・共同調理場の連携)

目的：学校給食の運営や食育の推進を組織で行う。

メンバー：共同調理場所長，中学校養護教諭，小学校養護教諭，栄養教諭

活動内容：食育の計画・実施，給食に関する反省，食物アレルギーのある児童生徒や除去対応についての情報共有，異物混入や食中毒などの対応についての協議，教材づくり(夏季研修)，学校給食週間，保育所訪問など

▼小学校，保育所での食育劇と指導



毎年，保育所・小学校・中学校・共同調理場の連携の一環として，食育担当者会で保育所を訪問している。今年度は朝食の大切さについて劇を行った。

4 「ひろしま給食100万食プロジェクト」の取組について

庄原市内の調理場の栄養士で、庄原市統一献立の作成、調理実習、各学校での提供を行った。給食時間の指導では、地場産物の紹介を行った。また、庄原市主催の親子食育教室でひろしま給食メニューを取り上げてもらい、地域の方や保護者の方と児童と一緒に調理実習を行った。食への興味関心や実践意欲を高めた。

～庄原市統一献立～

- ・ひろしまオールスター★坦々丼
- ・庄原とれたて大根サラダ
- ・りんご（高野産）
- ・牛乳



高野産

米，大根，ほうれんそう，りんご

広島県産

こんにゃく，ちりめんじゃこ，みそ，レモン汁，かきしょうゆ，広島菜漬

5 取組に対する成果と課題

【成果】

●食事のマナーについて

- ・食に関するアンケートの結果(肯定的回答)

項目	7月	2月
よい姿勢で食べている(児童)	79%	86% (7ポイント増)
児童はよい姿勢で食べている(教職員)	54%	72% (18ポイント増)
食器やはしを正しく持っている(児童)	83%	86% (3ポイント増)
児童は食器やはしを正しく持っている(教職員)	44%	66% (22ポイント増)

「よい姿勢で食べている」、「食器やはしを正しく持っている」は、児童・教職員ともに肯定的回答が増加した。

【課題】

はしや食器の持ち方については、正しい持ち方が分かっているにもかかわらず、癖のついた持ち方で持ってしまう児童もおり、継続して指導を行う必要がある。

朝食を食べてきている児童は2ポイント、朝食をバランスよく食べてきている(赤・黄・緑の食品を食べてきている)児童は9ポイント減少した。11月に実施する期間に、朝食の内容について指導したため、赤・黄・緑の食品がそろっているか、量が足りているか考える児童が増えたことによると考えられる。朝食を食べる時間がない児童や、寝る時間の遅い児童がみられるので、生活リズム全体を見直せるようにしていく必要がある。

6 今後の取組に向けた改善方策について

朝食欠食のある児童を減らし、バランスよく食べる(赤・黄・緑の食品がそろっている)児童の増加を目指す。そのために、食育朝会や各教科等における食に関する指導では、生活リズム調査の結果を活用し、児童に自分の生活習慣について考えさせ、実行への意欲を高めたい。また、朝食リーフレット等を活用し、自分で朝食を用意する、朝食の用意を手伝うなどの実践力を高めたい。

食事のマナーの定着については、給食時間のルールや配膳マニュアルの見直しを行い、学校全体での共有をする。参観日に合わせた掲示や、給食試食会など、機会をとらえて家庭への啓発も行っていきたい。